映画『キューティ・ブロンド』を通して考える外見と中身の関係

Thinking about the relationship between appearance and psychology through the movie “Legally Blonde”

文化研究／論文

地域キュレーションコース
崎田　唯
Yui Sakita

◉研究目的

ロバート･ルケティック監督のアメリカ映画『キューティ･ブロンド』(2002)に登場する主人公エル･ウッズという女性の外見とマインドを考察し、その比較として映画『プラダを着た悪魔』(デイビット･フランケル監督、2006)の主人公アンドレアという女性の２人を分析し、外見と中身の関係について研究した。

◉研究内容

第１章ではエルの外見アイデンティティと、装いとマインドの変化について述べている。初めは華やかな服を好んで着ていたが、自分を見失うシーンではモノクロの服を着るようになる。このことからエルはマインドが外見に影響を与えていたと考えられる。
第２章では映画『プラダを着た悪魔』の主人公アンドレアの例を検討している。第１章と同様にアンドレアの外見アイデンティティと、装いとマインドの変化について述べている。見た目は冴えない彼女が上司に認められるべく外見を意識しはじめると、仕事にプライドを持つようになった。このことからアンドレアの場合は外見がマインドを変化させたと考えられる。
第３章では「私たちの外見とマインド」と題し、エルとアンドレアを比較した上で私たちが実践できることについて述べている。エルとアンドレアについて分析したところ、ベクトルの違いはあるものの両者とも自己肯定感が高いということが判明した。自己肯定感が高いということは、自分の中の基準が定まっている場合が多く、同様に「美」に関する基準も定まっていることからオシャレな人が多いと言える。

◉結論

以上のように、本論文ではエルとアンドレアの比較を通して、マインドと外見の相互的な影響関係を認めることができた。しかしオシャレは絶対必要であるとは言えないものであるため、自分のなりたい姿を明確にすることが真に必要である。